

# Ｊリーグクラブにおけるユース育成成功クラブの抽出

## Extraction of Successful J-League Clubs in Developing Youth Players

1K06A0673

指導教員 主査 中村好男先生

兼清 文彦

副査 平田竹男先生

本研究では、Ｊリーグクラブの中でユース選手の育成に成功しているクラブを抽出することを目的として研究を行った。クラブが成功するための手段としては、ユースの選手育成が有効であると考えられる。FC バルセロナの先発主力メンバーはバルセロナのユースで育った選手が多い。バルセロナにおいてはユースの選手育成がチームの勝利に貢献していると考えられる。また、ウェストハム・ユナイテッドでは過去にユースで育成した選手を他のクラブに放出することで収入を得ている。このように、ユースの選手育成がプロサッカークラブの勝利や収入に貢献することから、ユースの選手育成が有効であると考えられる。しかし、プロサッカークラブにおけるユースの選手育成に関する研究は行われていない。そこで、本研究では、ユース育成に成功しているＪリーグクラブを明らかにすることを目的として研究を行った。その前提として、「ユースチームからトップチームに選手を輩出している ユースチームが成績を残している トップに昇格したユース出身選手が試合に出場している」ことを条件とし、条件を満たすクラブをユース選手育成成功クラブと定義した。本研究では、Ｊリーグクラブのユースチームの実績を明らかにするために、ユースチームからプロに昇格した人数やユースの大会成績を調べた。また、トップチームに昇格したユース出身選手が活躍しているかを明らかにするために、Sport Management Review の分析手法を参考にし、トップチームでの試合出場時間がチーム 18 位（ベンチ入りできる人数が 18 人）に入

るユース出身選手の人数を調べた。ユース出身選手のほかに、試合出場時間がチーム 18 位に入る高卒大卒選手の人数も調べ、両方の人数を合計したものを生え抜き選手の人数とした。Ｊリーグクラブにおいてユースの選手育成に成功しているクラブを抽出するために階層クラスター分析を行った。階層クラスター分析を行う前に、分析に用いる変数の中で相関性の高い変数同士がないかどうかを検証した。その結果を踏まえ、ユースからプロに輩出した人数および、トップチームの試合出場時間がチーム 18 位に入る生え抜き選手の人数、同じくチーム 18 位に入る高卒大卒選手の人数を変数として用いた。階層クラスター分析の結果、4 つのクラスターに分類することが有意であった。4 つのクラスターは、それぞれの特徴を参考にし、高卒大卒選手中心型、ユース選手少数型、ユース育成成功型、生え抜き選手少数型と名付けた。ユース育成成功型に分類されたクラブは、ガンバ大阪とサンフレッチェ広島だった。ガンバ大阪とサンフレッチェ広島はユースからプロに輩出した選手の人数およびユースの大会成績、トップの試合に出場しているユース出身選手が多かった。ガンバ大阪とサンフレッチェ広島は、設定したユース選手育成成功クラブの条件を満たしていることから、ユース選手育成成功クラブであると言える。本研究により、ユース育成実績の高いクラブを明らかにすることができた。今後は、ガンバ大阪やサンフレッチェ広島のユース育成成功要因を明らかにする必要がある。同時に、他のクラブがユース育成に成功できていない要因を

明らかにすることが必要である。